

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・日本で進んでいた「都市化」について、警鐘をならす批評文からの出題である。
- ・本文の分量は昨年度よりも若干減少している。すべて記述説明であり、設問数も五問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(17行)に比べ16行とわずかに減少した。
- ・本文分量、記述分量ともに大きな変化はなく、総合的にみて、全体の難易度も、ほぼ例年並とみられる。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	<input type="checkbox"/>
出典 (作者)	中井久夫「現代社会に生きること」(一九六四年)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
<input type="checkbox"/>	随筆	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄2行) 傍線部「かわいらしいもの」という表現が都市化がもたらす醜悪な影響と対比されていることを踏まえる。
		問二	記述式	標準	傍線部の心情を説明する問題。(解答欄3行) 自然を「疎外」する、自然から「疎外」されるの二側面を区別し両者をわかりやすく説明する必要がある。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 前後の文脈から「大地の感覚」の内容を理解し、傍線部全体の説明に組み込んで説明する。
		問四	記述式	標準	傍線部に示された筆者の考えの説明(解答欄4行) 筆者がどういう内容に、どういう理由で「同感」しているのかをわかりやすく説明する。
		問五	記述式	標準	全体を踏まえ筆者の考えを説明する問題。(解答欄4行) 本文全体の内容展開を踏まえ、「影響」としてどのようなものが示されているのか、人と自然、人と人の関係に区別して説明を組み立てていく。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ではしばしば評論や随筆がとりあげられている。だが、いずれであっても、文章の主題や筆者の主張を全体から的確に把握するとともに、個々の文脈を丁寧にたどって正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問のそれぞれがどのような意図をもっているか、その狙いを見極める訓練、その理解に応じた記述の練習を積み重ねておく必要がある。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間 120分
-----	--------------	-----------

昨年は詩人で彫刻家の高村光太郎による芸術論が出題されたが、今年は読書という営みや文学の持つ力について考察した随筆から出題された。解答欄は、昨年の計17行と同じ17行だった。設問は、何を書いたらいいかわからないという難問こそなかったが、問五などやや説明に苦労するものもあり、論述問題に慣れていなければ苦労したと思われる。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	小津夜景 『ロゴスと巻貝』
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	随筆	問一	記述式	標準	傍線部を説明する問題。(解答欄3行) 「地球はいつも決して死なない蛍の群れに覆われているみたいだ」という傍線部の比喻を、直前の文脈を踏まえて適切に説明する。
		問二	記述式	標準	傍線部を説明する問題。(解答欄2行) 「むしろ人間は倫理をはぎとった状態で対等に扱われる」という傍線部を、「対等に扱われる」という表現に留意して説明する。
		問三	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄4行) 「ここでうっかり相手の質問に乗ってはいけない」という傍線部の理由を説明する。「ここ」という指示語に着目しつつ、傍線部の後の根拠を答える。
		問四	記述式	標準	傍線部を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部の「特権階級的な傲慢さ」を丁寧に説明する。「特権階級」と「傲慢さ」をそれぞれ過不足なく説明する。
		問五	記述式	やや難	傍線部を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部の「言葉や文学が無力であるわけがない」の内容を、傍線部の後の比喩的な表現を言い換えつつ説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・文系二では随筆が出題されたが、評論や小説を含め、できるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。こうした点は、出題ジャンルが固定されている他大学にはない京大独自の特徴である。
- ・今年度は新しい文章だったが、文系二では古めの文章が出題されやすいことは留意しておきたい。旧仮名遣いにも慣れておく必要がある。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・中世の軍記物語『義経記』からの出題であった。
- ・昨年に引き続き、有名作品からの出題であった。
- ・2024年度は本文に和歌が四首ありそのうち三首が設問に関わっていたが、今年は一首でその和歌が問われていた。
- ・解答数は昨年と同じで五つであった。
- ・2023年度にあった漢詩は今年も本文になく、漢文・漢詩の設問もなかった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『義経記』 (不詳)
頻出度合 ・的中等	出典は普通
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加) 約960字 (前年は約690字)
難易 前年比較	難易 (易化・ <b>やや易化</b> ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	軍記物語	問一	記述式	やや易	現代語訳。「適宜ことばを補いつつ」という条件付きの現代語訳問題。「人」の具体化、「さへ」の訳出、謙譲語や丁寧語の訳出、「べし」の用法判別、などがポイント。(解答欄4行)
		問二	記述式	標準	説明。「後悔し給ふとも、甲斐あらじ」とはどういうことか説明する。「ともかくもなり」の理解がポイント。(解答欄3行)
		問三	記述式	標準	説明。「いつしか変はる心のうらめしさよ」とはどういうことか説明する。注を踏まえることと、「心」の具体化がポイント。(解答欄3行)
		問四	記述式	標準	説明。「何と言ひても、人の心の強きなれば、力なし」はどういうことか説明する。「何と言ひても」の具体化がポイント。(解答欄2行)
		問五	記述式	標準	和歌の現代語訳。「適宜ことばを補いつつ」という条件付きの現代語訳問題。人物関係の補充、「ころろ」の具体化がポイント。(解答欄3行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・有名作品からの出題は、京大文系古文の一つの流れなので、以前も出題されている『源氏物語』を代表とする平安時代・鎌倉時代の典型的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・近世の随筆・歌論からの出題も京大文系古文の一つの流れなので、論理的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・今年も和歌についての設問があった。修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。
- ・今年も、漢文・漢詩の問題は出題されなかったが、2023年度やそれ以前にも出題されているので、漢文や漢詩を読む練習はしておく必要があるだろう。
- ・現代語訳は、人物の補い、指示内容の具体化などわかりやすい現代語訳が要求されている。本文全体の現代語訳ができるかどうか京大文系古文の根本である。文脈を踏まえた現代語訳の練習がいちばんに望まれる。
- ・心情説明はよく出題されているので、慣れておく必要がある。
- ・時には、古文常識についても出題されるので、十分に学習しておきたい。